

郷土読本「小田原」の刊行によせて

私たちの住む小田原は、豊かな自然環境、歴史・文化、市民力・民間力など、素晴らしい地域資源を有しています。江戸時代には、小田原城を擁する東海道屈指の宿場町として発展し、人・もの・文化が行き交う中で、数々の伝統・技術の基礎が形成されてきました。時代を経てさらに発展を続け、交通の利便性などを生かし、今も多くの企業や人々が小田原を目指して集まり、県西の中心都市としての役割を担っています。

また、箱根の外輪山や曾我丘陵に囲まれ、小田原市の中央を流れる酒匂川は、深い森で滋養された栄養豊富な水を相模湾へ注ぎ、多種多様な魚介を育てています。こうした環境のもと、小田原を語る上で欠かせない生業や食文化が醸成されてきました。

このように、小田原の魅力は数多くあり、先人達から変わらず受け継がれています。小田原の変わらぬ魅力を十分に理解することは、それを守りたいと思う心を育むことにつながります。次の時代を担う皆さんが、その心を礎に小田原の地域資源を守りつつ、小田原の新たな価値を創造し、豊かな街を創生していくと信じています。

コロナ禍において、過密から分散という思考のシフトにより、地方回帰といった新しい価値観が再び見直されています。この時代において郷土読本「小田原」が改訂されることに大きな意義を感じています。この本との出会いが、郷土である小田原をじっくりと見つめなおすことに繋がり、さらには、自分自身の将来や生き方を見つめる“きっかけ”となることを心から願っています。

そして、郷土読本「小田原」で学んだ皆さんと「世界が憧れるまち“小田原”」を目指し、いつか共にまちづくりを進めていくことを楽しみにしています。

結びに、本書の刊行を喜ぶと共に、執筆編集の労をとられた各位に敬意と感謝の念をささげ、あいさついたします。

令和4年3月

小田原市長 守屋輝彦

序

みなさんは、「生きる」とはどんなことだと思いますか？

私は、人が「生きる」ということは、地球環境や人間社会の中で、豊かに自然や人との関わり、自分らしく輝いていくことだと考えます。そして、人が「生きる」ということは、連綿と続く歴史の中の貴重な一人として、より良い世の中を作り、歴史を次の未来へつなぐことだと考えます。

みなさんが「生きる」力を培^{つちか}うために、この小田原の豊かな「自然」、産業や交通の盛んな「社会」、先人から受け継いだ「歴史・文化」と関わることを大切に学んでほしいと思います。

この郷土読本「小田原」は、その学びの1つとして、授業でも扱いやすく皆さんが分かりやすいように、昭和45年から何度も改訂を重ね、まとめられています。よく読んでみると、今まで身近にありながら見過ごしてきたものに、その意味や奥深さを改めて感じることができるでしょう。身近な事物を見つめ直し、自分との関わりを再認識することを通して、この素晴らしいまち小田原で生きることの喜びを体全体で実感し、小田原に生きる誇りをもってほしいと願っています。

今回の改訂を経て、小田原市の小学校教員にも配付し、郷土読本の内容や背景を踏まえた学びづくりが実現されるようにしました。小学校での学習を踏まえ、仲間と地域について語りあい、響き合い、高め合っていくことを期待しています。

おわりに、この度の改訂にあたり、資料提供をしてくださった皆様、並びに指導・助言をくださった先生方のご厚意に対し、心から御礼申し上げます。

よりよい郷土の発展を期待して、序にかえさせていただきます。

令和4年3月

小田原市教育委員会教育長 柳 下 正 祐

目次

第1章 郷土の自然

1	位置と面積	9
2	地形・地質	11
1	三つの地域	11
2	河川	15
3	海底の地形	17
4	小田原市とその周辺で産出する石材	18
5	足柄平野の伏流水と井戸	19
3	大地の成り立ち（地史）	20
1	小田原周辺	21
2	箱根火山	24
4	気象	26
1	気温と降水量	26
2	風向と風力	29
3	温暖化による環境への影響	30

第2章 郷土の歴史

1 小田原のあけぼの —旧石器・縄文・弥生—	32
1 狩猟と採集の生活	33
2 水田耕作と金属文化の伝来	39
2 古代の文化 —大和・奈良・平安—	42
1 久野の円墳と田島の横穴基	43
2 相模国と国府・官道	45
3 民衆の生活と信仰	49
4 荘園の発達	51
3 武士の世の中 —鎌倉・室町—	55
1 源頼朝と武士の政権	55
2 鎌倉府の支配と小田原地方	62
4 小田原北条氏と小田原 —室町(戦国時代)・安土桃山—	66
1 北条五代	68
2 小田原の繁栄と文化	79
5 藩領下の小田原 —江戸—	93
1 城下町「小田原」	93
2 旅と宿	99
3 農村の生活と二宮尊徳	103
4 産業の発達と特産物	120
5 多彩な文芸	127
6 明治の夜明け	134
6 近代のあゆみ —明治・大正・昭和—	137
1 苦難な明治の小田原	137
2 教育の発展	143
3 近代文学と小田原	148
4 近代産業のめばえ	153
5 明治の海しょうと関東大震災	158
6 よみがえる小田原	162

第3章 現代と生活

1 小田原市の発展と人口	165
2 小田原市の産業	174
1 小田原の工業	174
2 小田原の農業	180
3 小田原の漁業	183
4 小田原の商業	185
3 整備される交通	186
4 向上する市民生活	192
1 生活環境	192
2 社会保障	206
3 教育と文化	207
5 くらしと政治	211
1 行政	211
2 財政	217
6 あすの小田原	220
小田原歴史年表	222
主な参考文献	228

小 田 原 市 民 憲 章

わたくしたちは、黒潮おどる相模湾にのぞみ、海の香におう天守閣をあおぐ「小田原」の市民です。わたくしたちは、先人の残した文化を誇りにし、西湘の近代都市としての限りない発展に願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

- 一、 **健康で明るい生活を大事にし、豊かな心をそだて
ましょう。**
- 一、 **元気で働くことを喜び、しあわせな家庭をきずき
ましょう。**
- 一、 **隣人と仲良くし、だれにもやさしく親切にしま
しょう。**
- 一、 **きまりを守り、力をあわせ、住みよいまちをつく
りましょう。**
- 一、 **緑と水を大切にし、平和な明日の繁栄につとめま
しょう。**